

岐阜県立加茂農林高等学校



食品科学科 しぶもん



このイラストは、美濃加茂市障がい者施設「ひまわりの家」さんのロゴです。

このイラストは、しぶもんが商品開発した商品のロゴとして使っています。

日本の柿渋を世界に！！

活動概のきっかけ

堂上蜂屋柿の新たな活用方法として柿渋に着目し活動してきました。その中で、岐阜県揖斐郡池田町の農家の野原さん宅を訪ねました。柿渋は昔から三重県の伊勢型紙の原料として使われ、伊勢型紙は着物の模様を描くのに使われています。しかし、現代では着物の需要がなくなり、これが、伊勢型紙の需要がなくなることにつながり、そして、柿渋の需要もなくなってしまっているのだそうです。「このままでは、柿渋の生産そのものが続けられなくなる可能性がある」と聞きました。

又、柿渋農家が減少しており全国では5軒で、岐阜県にはその内の2軒しかないと知りました。私たちはこの話を聞き、柿渋について真剣に考えないと大変なことになると考えるようになりました。



揖斐郡池田町・柿渋農家



のぞみ教室・ミサンガ作り



柿渋染めの講習会



柿渋石鹸作り



柿渋の成分分析

(1) 柿渋とは

柿渋には、主に防水・防腐・防虫・消臭・抗菌の5つの効果があり、千年以上前から和紙や木材に塗るなどして、活用されてきました。近年では消臭効果や抗菌効果のあるものが注目されており、消臭効果は緑茶タンニンの数倍も高く、悪臭の元となる物質をにおいの無い物質に変化させてしまう力があります。抗菌効果では、ノロウイルスに効果があり、植物由来成分の中で最も強い抗菌効果が認められています。

防水効果

防腐効果

抗菌効果

防虫効果

消臭効果



柿渋の製造



柿渋

「活動目標」 柿渋商品を開発し、世界にPRする

(2) 実施内容

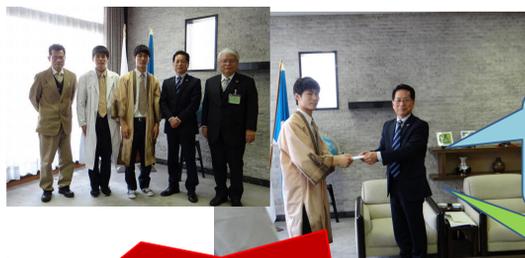
現在柿渋は、ほとんどの人が知りません。独特な臭いがありあまり好まれず、一般に販売されている柿渋商品は大変高価で、例えば柿渋のバッグなどの多くは1個当たり3万円以上で販売されています。つまり、なじみがない上非常に高価で一般の人が気軽に手に入れることができません。そこで、まずは柿渋を身近なものとする必要があると感じました。私たちは**柿渋商品**を作って販売していくためのブランドとしてJKS(ジェイクス)を考案しました。この名前の由来はJapan Kakishibu Strategyで、日本の柿渋戦略という意味があります。柿渋商品を製造・販売している「SIBUSI 36」や「リメイク工房茶々」さんの協力を得ながらより魅力ある商品開発につなげ、フリマアプリやネットオークションなどで販売していき、一つのブランドとして柿渋商品を広めていきたいと考えています。



摘果した渋柿



柿渋染め研修(リメイク工房茶々さん)



美濃加茂市役所・美濃加茂市障がい者支援施設「ひまわりの家」との連携



柿渋商品

美濃加茂市長・美濃加茂市教育委員長より「柿渋」を通じた活動に対して、激励をして頂きました。

右：美濃加茂市長・伊藤さん
左：3年食品科学科・林克之君

(3) 今後の展望・夢など

外国人児童初期適応教室「のぞみ教室」や本校で開催する外国籍児童とのワークショップによる交流を「柿渋染め」というテーマで継続しました。この交流を多文化共生を目指す美濃加茂市に広めていくため今後も継続していきたいと考えています。又、海外(ブラジル・オランダ・アメリカ)へ農業実習派遣生として参加して柿渋商品の紹介をしました。今後、国際化推進事業として交流を深めている台湾に渡航し紹介する計画も進めています。

又、福祉ボランティア活動として、美濃加茂市障がい者支援施設「ひまわりの家」と連携し、「柿渋石鹸」を開発しました。この石鹸は、10月27日に美濃加茂市福社会館、11月10日・11日にぎふ清流里山公園(元日本昭和村)で販売されました。



地域の方を集めた柿渋染め講習会の参加者の皆さん(24名)平成30年10月13日

活動団体プロフィール

岐阜県立加茂農林高校食品科学科は平成22年度から「堂上蜂屋柿(干し柿)」という美濃加茂市の特産品のPRを中心に地域貢献活動を行ってきました。このプロジェクトの中から「柿渋」をテーマに活動が昨年度から始まり、各種ワークショップや地域イベントの企画を行い、今年は「柿渋」をテーマにした地域活性化プロジェクトを重点的に行っています。



「柿渋石鹸」(柿渋入りの廃油石鹸)

昨年度に引き続きOKBアグリビジネス助成金事業として活動しています
左は土屋頭取さん
中は長尾侑耶君



柿渋染め講習会で制作した筆入れ
鉄で黒くした柿渋で模様を描きました